

県産木材の自給率と森林の循環利用【森林との付き合い方】

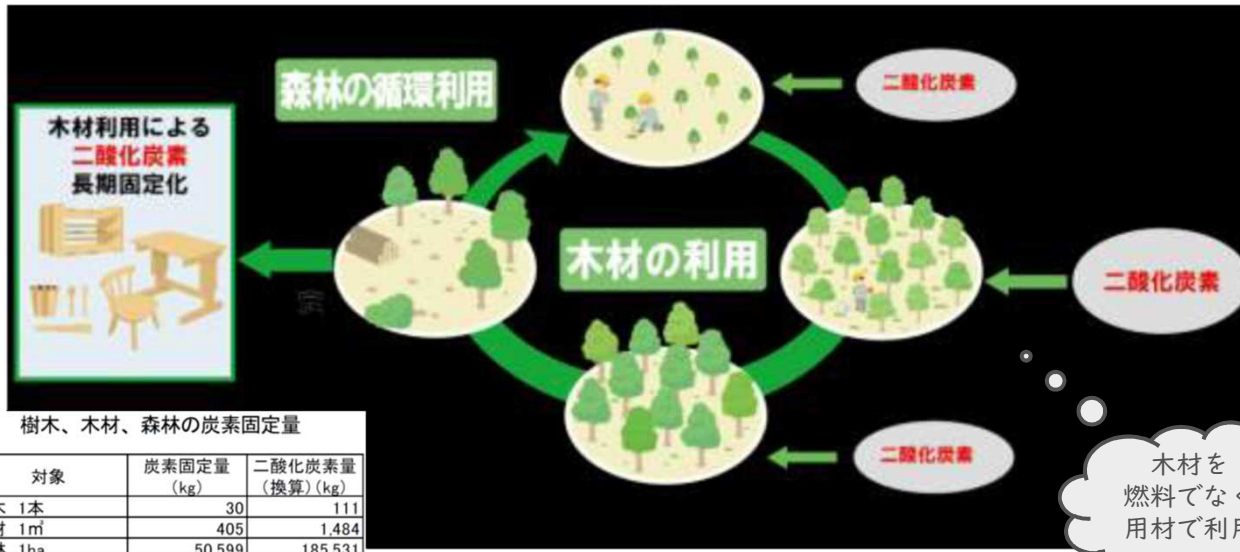
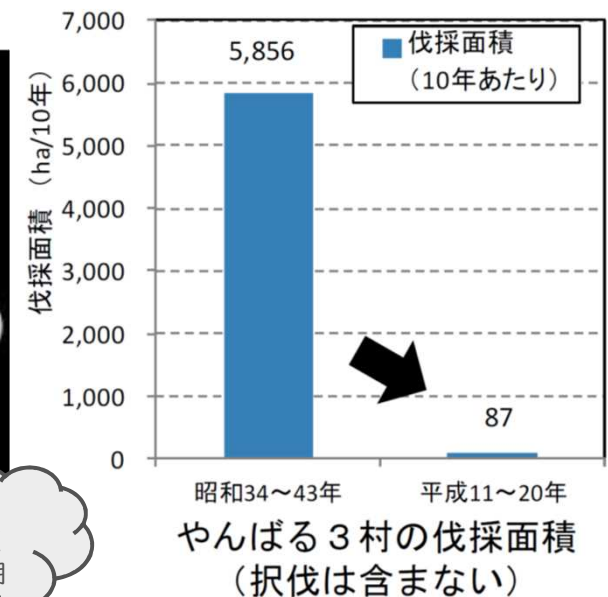
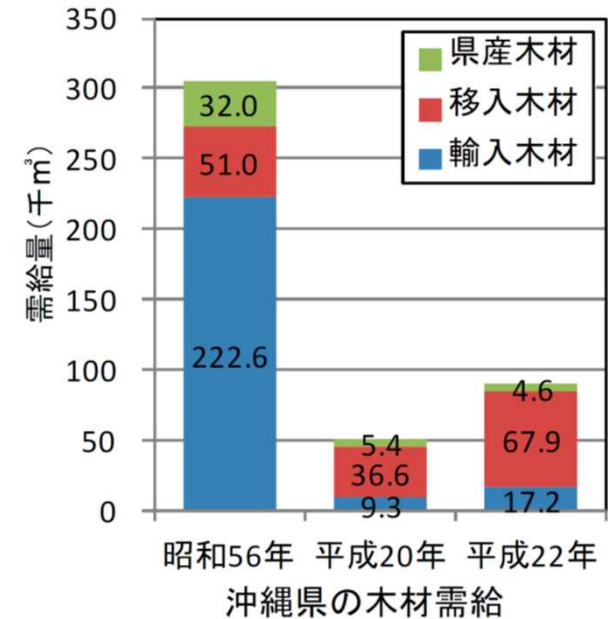
沖縄県の木材需要量は、昭和56年のピーク時305.6千m³に対し、平成22年時点で89.7千m³となっており、ピークの3割以下まで低下しています。

県内の木材自給率は約5%で、大部分が移入木材や輸入木材に頼っています。県産木材の利用で、輸入木材や移入木材に比べて大幅に輸送距離が短くなり、輸送時に使用する化石燃料から発生する二酸化炭素の排出量の低減につながります。

樹木は、二酸化炭素を用いて光合成を行い、炭素を有機物として幹や枝などに蓄え、成長していきます（炭素固定）。また、樹木の集合体である森林は、成長の過程で大量の二酸化炭素を吸収しています。

森林の循環利用(適切な時期に適切な密度管理のもと伐採)と木材利用で、多くの二酸化炭素を木材の中に長期固定化でき、さらに伐採後に苗木を植栽し、若い樹木が成長することで再び二酸化炭素を吸収します。

やんばる3村の収穫伐採面積は、昭和34～43年の10年間の合計5,856haに対し、平成11～20年の10年間で合計87haと約1/70まで減少しています。伐採方法は、近年では択伐も実施されています。



樹木、木材、森林の炭素固定量

対象	炭素固定量 (kg)	二酸化炭素量 (換算) (kg)
樹木 1本	30	111
木材 1m ³	405	1,484
森林 1ha	50,599	185,531

※樹木1本は、0.075m²と仮定
※森林は、21年生以上の広葉樹と仮定

森林の循環利用と二酸化炭素の吸収・固定

木材を燃料でなく用材で利用